IFA 地球時代を行く

ジュニア大使友情使節団

“ブルネイ班”初めての実施

ジュニア大使友情使節団は、子どもたちが国際理解を深め、平和を希求する人に育って欲しいという願いから1985年に創始され、今年で34年目を迎える。この7月には初めて「ブルネイ班」を派遣した。インターナショナル・スクールでのサマーキャンプやホームステイを行った。ここに参加した団員に感想を語ってもらう。

（関連記事：本誌5月号、9月号）

平川（ひらかわ）　大智（だいち）
名古屋市立城山中学校1年

日本ではあまり馴染みのないイスラム教の国では、多分教えが厳しいのだろうと勝手に決めつけていた。しかし実際は、みな好きなように過ごしているし、楽しそうに買い物をしている。サリーを着ていない方もいたり、意外と豚肉も売っていた。また、イスラム教では、貧しい人に寄付をするという素晴らしい教えがあった。更に、モスクの大きさや美しさといったら…もはや異世界に来た感じであった。

今回ブルネイへ行き思ったことがある。宗教は異なっても、皆同じ人間だ。何を争っているのだ、と。争っている人間はみな、異宗教を否定するのではない。そう、感じてみるのだ。

左右田（そうだ）　崇幌（たかあき）
國學院大學久我山中学校1年

今回、知らなかったブルネイについて興味を持ち、学びました。習い始めの英語、11日間家族から離れての生活に期待と不安を抱き日本を離れました。

僕が英語を本格的に話したのは、市内視察後の挨拶からでした。緊張してうまく話せなかったところもありましたが、終わった時はとても安心しました。ルームメイトは中国人のZou君で、英語を使わなければなりませんでした。英単語を間違えて、通じなかった時もありましたが、通じた時はとても嬉しく、英語を話す楽しさがよく分かりました。ブルネイについて友達にたくさん話し広めたいです。

種井（たねい）　栞里（しおり）
西武学園文理高等学校1年

私は、最初ブルネイと聞いてもどういう国なのか全然わかりませんでした。ですが、駐日ブルネイ大使館へ行き、おもてなしをしていただいた時にやさしい方がたくさんいて裕福な国ということを知り、実感しました。

ブルネイに着いて少し市内視察をしました。その後、学校に着いてサマーキャンプが始まり、韓国や中国の友達ができて安心しました。マウンテンバイクに乗ってジャングルへ行ったり、トートバッグを作ったり、日本ではあまり経験のできない体験ができました。ホームステイでは、ホストマザーとファザーが優しくしてくれたり、3歳の男の子とも仲良くなれたり、思い出が沢山できました。またブルネイへ行きたいです。

山﨑（やまざき）　千晶（ちあき）
東京学芸大学付属高等学校1年

私は今回のブルネイ班を通して、また海外に行って英語を勉強したいと思った。理由は主に2つある。

まず1つ目は、他の国の人との交流が楽しかったからである。日本人とは違った考え方や価値観を持っているため、会話や交流をしていると新たな発見をすることができた。しかしその一方で、英語ができないことによって相手の言っていることが分からない、自ら話しかけられないことが多くあり、悔しく思った。この英語がまだまだであるという点が2つ目の理由である。

今回ブルネイに行き、見たことのない景色を色々見ることができ、とても貴重な経験となった。今回でより海外に興味を持つことができた。

世界万華鏡　米国留学生の見た日本　エリザベス・ラモス・リリー　“笑えない？日本のお笑い”

皆さん、テレビで暑いお風呂に落とされて「熱い、熱い」と叫んでいる男の人を観たことがありますか。これを初めて観たとき、私はとてもびっくりしました。それよりも、これを観て大笑いをしている日本人の彼氏の様子にもっとびっくりしました。なぜ日本人はこういうかわいそうな姿で大笑いができるのか、その時の私は全く理解ができませんでした。これは言葉の壁のせいだと思っていましたが、言葉の壁ではなく、ユーモアの壁だと最近気づきました。日本人とアメリカ人の面白いと感じること、どこが違うのでしょうか。

まず一番大きな違いはコメディのテーマです。アメリカのコメディには大きく分けて3つのテーマがあります。政治、宗教、人種差別です。例えば、油絵とキリストの違いは何か。キリストには釘がたくさん必要だけど、油絵なら釘一本で壁に止められる。という感じです。どうですか。面白いですか。笑えない人もたくさんいましたよね。でも、これがアメリカのスタンドアップコメディや深夜にやっているトークショーで爆笑されるジョークです。

しかし、日本のコメディのスタイルは全然違います。大人でも、子供でも楽しめることについてお笑いにすることが多いです。そして、日本のコメディの中にはもう一つ重要な特徴としてボケとツッコミという役割があります。例えば、「いらっしゃいませ。ご預かりいたします。ご客様はご弁当の方ご温めますか」に、「『ご』が多いわ」という感じです。

日本人は本音をあんまり言わないので、ツッコミが皆が思っていることを言い、お客さんの共感を呼び、それで笑いが生まれるそうです。

なぜ、日本とアメリカのコメディでは扱うテーマがこんなに違うのでしょうか。アメリカにはたくさんの人種がいて、バックグラウンドが違う人が多いです。その人種やバックグラウンドを利用して、面白さを作ります。それに比べて、日本では日本人が一番多い人種な上に同じような環境で育った人が多いです。そのため、日本の文化を知っている人しかわからない面白さを作ります。つまり、日本で暮らしていないとわからない冗談がいっぱいあるということです。

日本での生活が長くなるにつれて、日本の文化を理解できるようになり、日本のコメディも面白いと思えるようになりました。今では、「熱い、熱い」ネタが面白いと思えるようになりました。やはり、他国のコメディを理解するためには文化を理解する必要があります。よく言われる、文化の理解は言語の理解にも繋がる、という言葉、今は私も心から実感しています。

平成30年9月7日実施、IFA後援、「ARC日本語学校スピーチ大会」（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）の優勝スピーチ。

平成30年9月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱

IFA 地球時代を行く

ジュニア大使、ブルネイ班

～親日の国、ブルネイを訪ねて～

「第34回夏期ジュニア大使友情使節団・ブルネイ班」は、今回初めての試みで、インターナショナル・スクールでのサマーキャンプを中心に英語による国際研修を行った。7月21日から31日までの11間の様子を報告する。

◇

【7月21日】結団式と大使館訪問

午前11時に東京・品川に集合し、結団式と「国際マナーとエチケット」など講義を受けた後、港区にある駐日ブルネイ大使館を表敬訪問。土曜日にもかかわらず、カミラ・ハニファ大使、イアン・マイディン書記官そしてご担当官のアットホームで温かい歓迎を受けた。大使公邸シェフのお料理はブルネイの伝統的なエビビーフン、カレークレープや菓子等、どれも大変美味しく、団員は皆、お代わりをしていた。スライドによるブルネイの紹介や民族衣装の説明もいただいた。また、天皇皇后両陛下がブルネイ国王即位50周年のお祝いに館を訪れたときに書かれた直筆サインも間近に見ることができ、約2時間の大変貴重な経験となった。

【7月22日】日本からブルネイへ

羽田空港へ移動後、事前研修として、挨拶と役割決め・海外安全対策・健康管理・英語ワンポイントレッスン、そして日本文化紹介の練習と、初めて出会った団員は皆で協力し合った。

23時過ぎの便で経由先のシンガポールには翌朝5時前に着いた。約4時間後の9時に出発、11時にブルネイ国際空港に到着。日本からは乗換時間も含めて12時間。熱波の日本と南国のブルネイと暑さはほとんど変わらなかった。時差は日本が1時間進んでいる。こじんまりとした空港で、機内で出入国カードをもれなく記入し、ゆっくりながらスムースに通関はできた。

睡眠時間が足りないながら、ジュニア大使たちは元気に市内視察のバスに乗った。まずは昼食。マレーシア・インドネシア料理のビュッフェスタイル。それほど辛くなく皆、思い思いに食す。

最初の訪問先は、スルターン・オマール・アリ・サイフディーン・モスク。入口でそれぞれの身長に合ったイスラム服をお借りして入室、イスラム教の普段の生活に触れるまたとない機会となった。その後、いよいよ学校寮へ。

【7月23日～27日】サマーキャンプ

同じグループには、ブルネイ、韓国、中国、オーストラリアの生徒。活動は、サッカー、水泳、テニス、クリケット、バスケットボール、バドミントンを英国の先生方が指導し英語で交流。

午後は以下、戸外活動。

①伝統的な集落訪問と刺さない蜂のはちみつの採取

②水上集落の訪問、ボートよりマングローブに住む、テングザルを眺める

③ナイトマーケットの見学と夕食

その他、夕刻は本のカバー作りや布バックの絵付を専門家より英語で実習。

【7月24日】日本国大使館表敬訪問

加藤元彦大使より、日本とブルネイの関係などのお話を伺う。「外交で困ったことはありませんか」などの質問にも一つひとつお答えいただいた。

【7月28日～30日】ホームステイ

ブルネイの家庭に一人一家庭でホームステイ。今年で72歳、50周年を迎えるハサナル・ボルキア国王にお目にかかれた団員もいた。

英国英語で活動し、1週間後には聞き取りが皆、各段に良くなったようだ。

世界万華鏡　国際交流・コーディネーター　小山（おやま）　麻由実（まゆみ）　シリーズ3　ジンバブエ

2015年3月31から約3年間、夫と世界一周新婚旅行に出かけました。今回は、日本ではあまり知られていない、アフリカのジンバブエをご紹介します。

◇

ジンバブエ共和国は南に南アフリカ共和国、東にモザンビーク、西にボツワナ、そして北にザンビアとタンザニアに囲まれた内陸国です。面積は日本より少し広い39.1㎢。大自然を国立公園やサファリ区域で体感できます。

2016年2月1日、私たちはグレートジンバブエ遺跡を目指しました。あまり知られていない遺跡ですが、世界で2番目に大きい石の遺跡で世界遺産です。（1番はエジプトのピラミッド）グレートジンバブエ遺跡の拠点はマシンゴという町で、首都ハラレから約300㎞南にあります。

我々はザンビアから陸路でマシンゴを目指し、ミニバスを乗り次いで行きました。アフリカでミニバスと言えばハイエースですが、ここでは7人乗りの乗用車に14人ほど押しこめられながら、約6時間の道のり。9ドルしかかかりませんが、アフリカならではの移動です。翌日マシンゴの町から路線バスで遺跡へ。運転手に遺跡の近くで降ろして欲しいと告げると、何と他の乗客に説明し、路線から外れて遺跡の前で降ろしてくれました。アフリカ人のこういう優しさが大好きです。

炎天下の中を少し歩き、入口に着いたものの人影はなく、世界遺産なのに閑散としていました。小屋で涼んでいた公式ガイドに案内を頼みました。

国名の「ジンバブエ」とはもともと「石の家」という意味。この遺跡は石で作られた国王の住居です。国旗の鷹もこの遺跡に描かれています。東西・南北がそれぞれ1.5㎞で、650年頃から作られたというのですから驚きです。

遺跡は大きく三つ。一つは「アクロポリス」。王様が居住した場所で儀式等が行われていたそうです。標高1000mで遠くからは巨大な岩山に見えます。近づくと大きな岩がいくつも並んでいます。巨岩の間の細い坂を30分ほど登ると頂上に到着。石の囲いは必ずお辞儀をして入るように低く作られているそうです。自然の巨岩と人間が積み上げた石が絶妙なバランスで融合していて本当に芸術的、美しいです。

二つ目は「谷の遺跡」、数多くいた王様の妻子の生活場所です。この付近にはたくさんのアロエの木があり、女性たちはこのアロエを美容のために使っていたそうです。

三つ目は「エンクロージャー」、巨大な丸い遺跡です。第一婦人の住居で儀式にも使われていたそうです。蛇の模様があり、数メートルにも積み上げられた石壁は圧巻です。

歴史博物館もあり、ここで出土された代々の国王を象徴する8個の鷹の彫刻、四つの大小さまざまな石で四季を表し、影の長さで時間を認識した石時計もあり、高度な文明を感じました。ぜひ訪れて欲しい穴場の世界遺産です。

平成30年8月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：音和堂印刷㈱